

幌延町商工会との意見交換会を開催

令和元年11月25日

毎年、各団体などと実施しています意見交換会を、令和元年度は幌延町商工会の皆さんと行いました。

町議会議員7名と、商工会員14名、事務局職員などが商工会館2階の会議室で意見交換を行い、今町が検討を進めている交流拠点施設整備事業などを中心にご意見、ご質問をいただきました。

議会として会場でお答えできなかった部分について、町部局からいただいた回答などを加えて、ご紹介します。



▼交流拠点施設整備について

質問 拠点施設とは、誰のための施設なのか。

担当課 町外からの交流人口を増やすことを目的とするほか、町民の皆さんにも利用していただける施設にしたい。

質問 場所も内容も決まっていけないものを、いちから創生会議等で計画を考えるのは荷が重い。作る必要があるのかという意見もある。

担当課 場所としては、幌延駅前、幌延駅裏、スポーツ公園隣、新天塩大橋付近、パイパス出入口付近、トナカイ観光牧場付近などが考えられる。それらも含め、今後創生会議などで資料提供等しながら、一緒に検討していきたい。

質問 街中に建てるのと、他の事業者を圧迫するのではないか。また、町内では働き手不足で困っている現状だが。

担当課 町内の事業者にも相乗効果が期待できるものもあるのではないかと考えている。働き手不足については、ご指摘のとおりであり、考えていきたい。

▼まちづくり全般について

質問 幌延町には企業誘致条例がない。小さな事業所でもいいので、一つずつ増やしていくことが必要。

担当課 各種助成制度は、事業所の規模を問わず対応できている。これらの助成制度を充分に認知していただくため、町内外にわかりやすくPRしていく。

質問 保健センターが役場に移動したのは何故か。相談に行きづらいという声がある。

担当課 保健センターの場所が「遠い」「坂道のため行くのが大変」という声があった。また、役場とセンターで手続きの場所が分かれていることの不便さもあつた。市街地の中心部である役場に移したことで、手続きの利便性向上、地域包括ケアシステムの構築に向け

た。市街地の中心部である役場に移したことで、手続きの利便性向上、地域包括ケアシステムの構築に向け



た担当者の連携の推進などを考慮した。

移転後、賛否はあるが、今まで保健センターに行っていなかった高齢者等に、窓口にいらいしたときに声掛けできたり、保健、福祉の担当者の情報共有がしやすくなったなどのメリットもある。

質問 秘境駅に何百万もお金をかけても、何人かの人が来て、それで終わってしまう。

担当課 イベントの際の宿泊や飲食店利用など、多少なりとも秘境駅観光事業の実施による経済効果はある。

編集後記

令和になって初めての新年がスタートしました。今年は全国的に暖冬傾向が続いています。

生活面では大変喜ばれている状況ですが、道内各地での、冬のイベントが中止になったり、スキー場がオープン出来ないなど、レジャー産業や観光業に少なからず影響がでそうです。町でも今の時点でスキー場のリフト運行が出来ません。オーストラリアでの大規模火災など世界中で気候変動が進む傾向にあり、にわかには地球環境問題が取り沙汰され始めました。私たちの豊かな生活を維持しながら、地球温暖化対策を進めることの難しさを改めて痛感しています。皆様は如何でしょうか。

とは言え、とりあえず今後の気候が気にかかる昨今です。

編集委員長 植村 敦
編集委員 齋賀 弘孝
無量舎 隆

西澤 裕之